

シンシナティ小児病院医療センター留学報告
(2022年4月～2024年3月)

大分大学医学部附属病院薬剤部
田中 遼大

私は2022年4月から2024年3月までの約2年間、米国オハイオ州のシンシナティにある Cincinnati Children's Hospital Medical Center (CCHMC) の Clinical Pharmacology (途中から Translational and Clinical Pharmacology に改名) 部門に留学させて頂きました。

シンシナティはオハイオ州の中では一番南に位置していますが、緯度は秋田県くらいに位置しているため冬は非常に寒い時もあります。特に変動が激しいのが特徴で、winter storm で-20℃に達したかと思えば、その1週間後には20℃くらいまで上昇するということもありました。アパートは治安を考慮し病院から車で20-30分程離れた地域に借りましたが、日本とは異なり敷地がとにかく広いうえ、景観も美しく、クラブハウスやバー、プール、ジムなども併設されていました。ハロウィンやクリスマスなどはアパートの住民を対象としたイベントも多数開催され、家族で参加して楽しむことができました。また、近くには非常に大きなスーパーマーケットもあり、日本食については車で15分くらいのところで何でも購入できました。また、とにかく全てが広大で、どの家も庭が広く、基本的にバスケットゴールが付いていました。公園も広くて、遊具が綺麗なうえバリエーション豊富で、子供を連れて遊ぶには十分な場所が多かったです。治安のよい地域で暮らしていたためか、現地の人々はフレンドリーで親切な方が多い印象でした。特に子供といるときは、すれ違っただけで話し掛けてくれることも多く、優しくて好意的でした。

CCHMC は全米の小児病院の中でもトップ3に入る規模の病院であり、2023年には US News & World Report の Best Children's Hospital に選ばれる等、世界的にも有名な小児病院です。また、研究部門にも力を入れており、2023年には3億ドルを超える外部資金と約5000件の論文を投稿しており、米国における小児領域のイノベーションを担っている重要な機関の一つです。Clinical Pharmacology 部門は Prof Alexander A Vinks を Division director として、臨床医や基礎研究者と様々な臨床研究やトランスレーショナルリサーチを展開していました。私は日本人の水野知行先生のグループに加わり、開発段階にある化合物の popPK 解析を用いた至適投与量の設定や投与量の妥当性の検証、抗体医薬品やブプレノルフィンの PBPK 解析を用いた特殊集団における個別化療法の確立、Model-informed Precision Dosing を活用した臨床研究など、非常に多くの研究に従事させて頂きました。

本留学を通じて、新しい臨床薬理学のスキル・知識を吸収できるだけでなく、文化や言語が違う地域で生活することができ、研究者としてだけでなく人としても大いに成長できたと実感しております。海外留学助成の応募にあたり推薦状をご用意頂いた大分大学名誉教授・社会医療法人敬和会敬和国際医院院長の大橋京一先生および本当に価値のある2年間をご助力頂きました臨床薬理研究振興財団の皆様がこの場を借りて厚く御礼申し上げます。